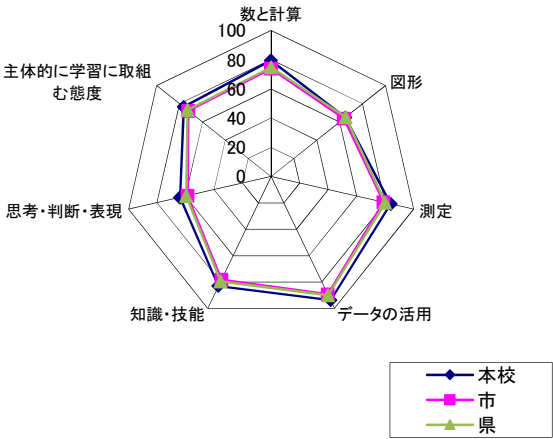


宇都宮市立富士見小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.5	73.8	74.8
	図形	65.0	63.7	65.3
	測定	83.8	78.9	80.1
	データの活用	93.8	89.3	90.0
観点	知識・技能	83.0	78.3	79.5
	思考・判断・表現	63.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	76.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は79.5%で、県の正答率を4.7ポイント上回った。 ○「□を使った加法の式に合った文章問題を選んでいる」の平均正答率は86.6%で、県の正答率を8.2ポイント上回った。 ●「 35×4 の暗算の仕方を説明している」の平均正答率は、55.4%で県の平均を4.0ポイント上回っているものの、低い正答率となった。	・暗算の仕方については、数の仕組みについて理解を深めさせたい。そのため、乗法の筆算の導入時に、被乗数が20や30等の(2位数) $\times$ (1位数)であっても、20は10が2個分、30は10が3個分と考えると既習の九九に帰着して計算できること等、工夫して計算することのよさを十分に理解させながら筆算につなげていく。その上で「 35×4 」のような計算も、十進位取り記数法や分配法則に基づいて位ごとに分けて計算できるという見方や考え方ができるよう十分な時間を確保して力をつけていく。計算技能の定着については、学習後に再度振り返る機会を設定し復習できるようにしていく。
図形	●本領域の平均正答率は65.0%で、県の正答率を0.3ポイント下回った。 ○「円の半径とコンパスの使い方について理解している」の平均正答率は、78.6%で県の正答率を3.4ポイント上回っている。 ●「大きさが同じ6個のボールがぴったり入っている箱の横の長さから、ボールの半径を求めることができる」の平均正答率は59.8%で、県の正答率を4.6ポイント下回っている。	・円と球については、直径、半径の長さから図形がイメージできるように、ICTなどを活用し平面図や断面図などに表して形を捉えられるようにしていく。また、実物を使って球の直径を箱の縦や横に対応させて調べる活動も取り入れながら知識や技能の定着を図っていく。ICTや実物を活用することで立体を捉えやすくし、平面⇄立体をイメージできるよう力をつけさせていく。 ・授業後もプリントやドリル等で復習する機会を設けるなどし、習熟できるように指導する。
測定	○本領域の平均正答率は83.8%で、県の正答率を3.7ポイント上回った。 ○「2つの時刻の間の時間を求めることができる」の平均正答率は83.9%で、県の正答率を6.8ポイント上回った。 ●「はかりの目盛りの読み方を理解している」については、県の正答率とほぼ同じだった。	・はかりの目盛りを読む指導の際には、「最大量を確認する→大目盛りを確認する→中目盛りを確認する→最小目盛りを確認する」の手順を丁寧に指導をしていく。また、実際にいろいろな物の重さを量ったり、単位の仕組みについてまとめたりする活動を通して、はかりの目盛りの読み方について慣れさせ定着を図っていく。 ・授業後も宿題の内容を工夫し、プリントやドリル等で復習する機会を設ける等、習熟できるように指導する。
データの活用	○本領域の平均正答率は93.8%で、県の正答率を3.8ポイント上回った。 ○「棒グラフで、1目盛りの表す数が分かる」の平均正答率は93.8%で、県の正答率を3.6ポイント上回った。 ○「棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘することができる」の平均正答率は93.8%で、県の正答率を4ポイント上回った。	・棒グラフを読み取る活動では、1目盛りの数の大きさに着目できるように、目盛りに示された数値と数値の大きさを何等分しているかを考えさせる活動を充実させる。 ・数量の差を捉えさせる際には、棒の長さに着目できるように1目盛りが1を表すグラフを中心に扱い、それぞれの縦軸の目盛りの数の違いを正確に読み取る力を付けていく。その後、1目盛りの数値を大きくするなど、段階的な指導を充実させる。今後、さらに定着が図れるよう、学校生活の様々な場面で表や棒グラフなどのデータを活用する活動を取り入れていく。